

戸田康之さん『ろう文化』

戸田です。よろしく。

今日お話しするのは、ろう学校の中のろう文化についてです。

私の仕事は、埼玉県のろう学校教員です。ろう学校の幼稚部で教えています。

ろう学校では、ろうの子どもや生徒たちが集団生活をしていますよね。そこには聴者の文化とは違うろう文化がたくさん根付いているんです。例えば、聴者の場合は、友達を呼ぶ時に声で呼びかけますよね。ろう学校の生徒たちは、声ではなく肩を叩いて呼びかけます。また、机を叩いたり、床を踏み鳴らしたりする呼び方が身についています。これもろう文化です。今回お話しする幼稚部の子どもたちのろう文化がとてもおもしろいんです。

人を呼ぶ時に肩を叩くのは当たり前ですが、その部屋にいる全員、例えば、遊ぶ時間はもう終わりでこの後は給食だということを全員に知らせたい時にどのようにするか。ひとりひとりに肩を叩いて知らせるのは骨が折れますよね。壁を叩いたとしても、遠くにいる子どもたちには伝わりません。机を叩いたとしても、子どもたちは遊びに夢中で気づきません。では、全員に遊びの時間が終わることを知らせたい時にどうするか。部屋の照明を点けたり消したりします。先生に、遊びの時間が終わることをみんなに知らせよう頼まれた子どもは、部屋の照明のスイッチを入れたり切ったりします。すると遊んでいた子どもが何かあると気づくので一斉に先生の方を向いてくれ、片付けの指示を全員に出すことができます。これもろう文化のひとつです。

遊びの時だけではありません。他にも、教室での給食が終わって、1人がその日は早退しなければならずお母さんがお迎えに来るような時、給食を一足早く食べ終わり、部屋を抜けてエプロンやコップを荷物に詰めて帰り支度をしていざ帰ろうという時も、そのまま帰らないんです。わざわざ教室の友達のいるところに戻ってきます。自分が帰ることを伝えたいけれども、友達はまだ給食を食べていたりおしゃべりしたりしていると、その子はやっぱり教室の照明を点けたり消したりしてみんなに自分のことを見てもらい、自分が帰ることをはっきり知らせます。子どもたちに根付いている照明を使ったろう文化です。

実は私の家でも同じやり方をしています。

我が家は私と妻がろう者、子どもは3人とも聴者のCODAです。

子どもが学校のあと塾があると帰りが遅く、夜10時とか9時半くらいに子どもたちが帰ってきて、私はテレビを見ています。ふつう、聴者の家庭だったら子どもが帰ってきた時には「ただいま！」と言って、その声で帰宅したと分かりますよね。でも私はろうですから子どもの帰宅は音では分かりません。帰宅を知らされないまま家にいたら驚いてしまうので、子どもたちは帰宅したらちゃん

と声をかけてくれます。以前はわざわざ私のところまで来て肩を叩いて教えてくれましたが、今はやり方が変わりました。子どもも知恵がついて、照明を使って帰宅を知らせるようになったんです。子ども自身が思いついてやり始めたのですが、いいアイデアだと思いました。家庭にあるろう文化です。

ろう文化は他にもいろいろあります。みなさんも、他のろう者にどんなろう文化があるか聞いてみてくださいね。